

第3回市史講座ミニレポート：平成29年6月17日（土）

「松江商業会議所と商工業の展開」

講師：伊藤康宏先生（島根大学生物資源科学部）



今回の講座は、「松江商業会議所と商工業の展開」というテーマでお話しいただきました。「松江商業会議所（現在の松江商工会議所）」の沿革と背景を中心に、あわせて現在、伊藤先生が編纂に携わっている『松江市史』史料編「近現代」Ⅱ（2018年度刊行予定）および通史編「近現代」（2019年度刊行予定）の産業経済分野の構成を紹介されました。

松江商業会議所は、商業会議所条例（1890年）の施行を受け、1894（明治27）年3月、全国で32番目、中国5県では広島・下関・尾道・岡山に次いで5番目に設立されました。初代会頭は松本歆次郎で、1873（明治6）年に第一人参製造会社を寺町に設立、さらに松江銀行や山陰貯蓄銀行等の設立に関わり、初代頭取を務めた人物でした。

同会議所は、1895（明治28）年6月に『松江商業会議所報告』を創刊、1910（明治43）年7月には機関紙『松江商工彙報』を創刊して事業活動を本格化しました。その後、1928（昭和3）年10月には商工会議所法の施行により「松江商工会議所」に改組、1943（昭和18）年10月には戦時下において公布された商工経済会法により「島根県商工経済会」に改組、と展開していきます。

講座では、同会議所議員の顔ぶれの変遷を『松江商工人名録』から詳細にたどりつつ、あわせて 1895（明治 28）年の松江電灯株式会社の設立、1919（大正 8）年の松江公設市場開設、1929（昭和 4）年の松江片倉製糸会社の開業といった商都松江のトピックスを豊富な史料からとりあげました。

そして最後のスライドでは、「古い看板・広告チラシ・写真等、お宅に眠っていませんか？通史編の口絵、挿図候補を探しています」と呼びかけて終了しました。